

キャリア指導の現場から ②

東京都立晴海総合高等学校 相談部教諭・キャリアカウンセラー

千葉吉裕

ホランド占い

オリックス生命保険の「しっかりしなきゃ 占い師編」をご存じですか？水晶玉を見つめ占うのだけれど、のはずれな言葉に、被験者役の女優・上野樹里さんが「私がしっかりしなきゃ」と考えるCMです。

教師は、生徒の可能性を拡大し、能力を開花し、やる気を高めることが求められます。教師の言葉かけは、時に占いの師のようでもあります。しかし、先の占いの師のようなやりとりでは、信頼を損なってしまう。「ぴったりに当たっている」と思わせなければならぬのです。信頼を構築するために、共感的な理解が有効であるとよく言われますが、常に生徒と接している環境では、無理に自分のスタイルを変えて会話していると、生徒に演技を見抜かれ、逆に信頼を失いかねません。そこで、私が生徒から信頼を得るために見つけた方法が、「あなたのことをあなた以上に理解している」と感じさせる占いの手法です。といって、疑似科学的なマジックの手法ではなく、真正正銘の理論に基づいた方法です。ここでは、その手法の一端を紹介させていただこうと思います。

活用するツールは、職業レディネス・テスト。この検査は、「ホランドの職業選択理論」に基づいて作成されています。職業が冠についているので、職業選択のみに活用するツールと

思っている人がいますが、それは大間違い。進学指導から、友人との人間関係まで診断できてしまうという優れたものです。被験者には記入済みの「回答紙」と「結果の見方・生かし方」を持参させます。「結果の見方・生かし方」のプロフィールを見て、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的のいずれが高いか見ます。その際、回答紙を見て、高い項目に「○」がたくさんついているのを確認します。「一」がついて高くなっている場合は、言い方を少し和らげ断定的にならないように注意します。

最初の言葉かけは、生徒に大きく響くので、たいへん重要です。企業的高い場合、「負けず嫌いでしょ」、社会的なら、「寂しがり屋でしょ」、芸術的なら、「友達との会話の言葉で、話を変えてしまうことはない？」、慣習的なら「ノートはきれいに書こうと心がけていない？」、現実的なら、「時々一人になりたい時があるでしょ」、研究的なら、「ちゃんと筋を通して説明して

と思う時はない？」などと声をかけるわけです。さらに細かくプロフィールを読み解き、性格や行動パターン、興味と診断し、興味を持ちそうな情報を提供していきます。誌面の都合で細かくお伝えできないのが残念ですが、職業レディネス・テスト（第3版）の手引が参考になります。ただし、占いの師

の手法は掲載されていませんので、悪しからず。

この手法を伝授した方々からは「本当によく当たります」というお褒めの言葉をいただき、生徒たちからは、「街角の占い師として食べていけますよ」とお墨付きまでいただいています。

卒業後の進路や履修科目などの選択決定は、高等学校に課せられた重要な使命です。この選択決定の際、世の中のことにあまり知らず経験も少ない高校生から希望を聞き、その申し出に沿うだけの選択決定では成功しません。教師が選択決定のための理論を理解し活用することは、相談活動の中で欠かせない知識と能力です。そして、それらを活用し信頼を得た教師の言葉は、子どもたちを大きく成長させていくと考えられます。多くの人にこの手法を活用していただければ、多くの高校生の悩みは解消することになるでしょう。

この「ホランドの職業選択理論」に基づいたアセスメントを、私は「ホランド占い」と名付けました。「ホランド占い」の技法は、教師として絶対に知っておくべきものだと思います。近い将来、「ホランド占い」が高等学校で大ヒットすることを私は信じて疑いません。あなたはこう思われますか？